



## 共創を基盤とした AI 時代の作業療法イノベーション

五百川 和明

福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科

### 略 歴

#### 【学 歴】

1991年3月  
国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業  
2016年3月  
東北大学大学院 医学系研究科 障害科学専攻 博士課程後期 修了

#### 【職 歴】

1991年4月  
桑野協立病院 リハビリテーション科  
1992年4月  
竹田綜合病院 リハビリテーション科  
2005年10月  
福島第一病院 リハビリテーション技術科  
2008年1月  
東北福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻  
2017年4月  
福島県立医科大学 新医療系学部 設置準備室  
2021年4月  
福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科 教授 現在に至る  
2025年4月  
福島県立医科大学 保健科学部長 現在に至る

#### 【学位・資格】

- 博士(障害科学)
- 専門作業療法士(脳血管障害)

近年、人工知能(Artificial Intelligence, AI)やデジタル技術の急速な進展は、医療・介護・福祉分野に大きな変化をもたらしています。作業療法においても、これらの技術を活用することで、新たなアプローチの創出やより個別化された支援の実現が期待されています。

作業療法は人の作業に焦点を当て、その人らしい生活の再構築を支援する専門職です。介入においては心身機能のみならず、対象者の価値観や生活史、家族関係、地域とのつながりといった多層的な要素が重視されます。AIがどれほど高度に発展したとしても、対象者が何を大切にし、どのような生活を望むのかという問いに向き合い、共に構想する営みは、作業療法士にとって重要な役割であることに変わりはありません。一方で、AI時代だからこそ、対象者の望みを実現するための作業療法の多様なアプローチが、これまで以上に可能になると考えられます。

本講演では「共創」という概念を基盤に、AI時代における作業療法の新たな方向性を展望します。共創とは、対象者や家族、他の専門職に加え、研究者や技術開発者、地域住民など多様な主体と対話や議論を重ねながら、共に課題の解決策を創り出していく姿勢を意味します。これからの作業療法士には、専門知を深める力に加え、異分野・他業種とつながり、橋渡しを行い、新たな実践を創出する力が求められます。

東北作業療法学会には生活に根ざした実践知と柔軟な連携の文化があります。本学会ではその知恵を共有し、多くの作業療法士がAI時代を前向きに捉え、自らの専門性を再確認しながら未来を描く場となることを願っています。本講演が本学会における議論の出発点となり、共創による新たなイノベーションの萌芽となることを期待します。